

ボリス・ベルキン

本学特別招聘教授



6月11日(火)

中目黒・代官山キャンパス

指揮公開レッスン

17:30～ C401

ミニコンサート

19:30頃～ TCMホール

Boris Davidovich Belkin

6歳よりヴァイオリンを始め、7歳でキリル・コンドラシンの共演でデビューを果たした。モスクワ音楽院中央音楽学でフェリクス・アンドリエフスキー氏に師事。1973年、ソヴィエト連邦ヴァイオリンコンクールで優勝。ベルリン・フィルをはじめ、ボストン響、イスラエル・フィル、ロスアンジェルス・フィル、フィラデルフィア管、ピッツバーグ響、モントリオール響、バイエルン放送響、ロイヤル・コンサートヘボウ管や、英国の数多くの楽団と共演。シベリウスの伝記映画では、ヴァイオリン協奏曲をウラディーミル・アシュケナーズ指揮/スウェーデン放送響と共演。これまでにレナード・バーンスタイン指揮/ニューヨーク・フィル、フランス国立管、ベルナルド・ハイティンク指揮/ロイヤル・コンサートヘボウ管と共演。録音も多い。デッカレーベルに、パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第1番」(メータ指揮/イスラエル・フィル)、チャイコフスキーとシベリウスの協奏曲をアシュケナーズ指揮/フィルハーモニア管などがある。またデンオンにはプロコフィエフの協奏曲をマイケル・スターン指揮/チューリヒ・トーンハレ管と、ブルッフ、シベリウス、ショスタコーヴィチ、グラスノフを広上淳一指揮/ロイヤル・フィルと録音。1997年には、アイザック・スターンの招きを受け、宮崎国際音楽祭で共演する。またユーリ・バシュメット、ミッシャ・マイルスキー等と室内楽に取り組んでいる。近年では、テミルカーノフ指揮/サンクトペテルブルク・フィルとのヨーロッパ・ツアー、広上淳一とアシュケナーズ指揮/NHK響、ジェルメティ指揮/シドニー響のオーストラリア・ツアー、レナード・スラットキン指揮/ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、デュトワ指揮/ドレスデン・シュターツカペレ等と共演。毎年夏にイタリアのキジアーナ音楽院でマスタークラスを行なっている。使用楽器はポーロニャのロベルト・レガッツィ作。

【ナビゲーター】

広上淳一(本学教授)

【曲目】

S.プロコフィエフ： 《ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19》

S.プロコフィエフ： 《ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63》

【レッスン受講生】

石崎匠馬 (大学4年)、栗原翼 (大学4年)

岡本陸 (大学3年)、小林雄太 (大学3年)

Anna Litvinova (大学3年)、広田華奈子 (大学2年)

【ヴァイオリンソロ】

関朋岳 (大学3年)

福田麻子 (大学院1年)

【オーケストラ】

本学学生有志

【通訳】

柿沼麗子

【聴講自由・入場無料】

★お問い合わせ： 東京音楽大学 指揮研究室 conducting@tokyo-ondai.ac.jp